

令和四年度・学校評価に関わる 保護者・生徒・教員アンケート結果

学校評価に関わるアンケートのご協力、大変ありがとうございました。いただいたアンケートを分析し、分析結果について学校関係者評価委員会の方々からもご意見をいただきました。それらの内容を令和5年度以降の教育活動に活かして参ります。



○アンケート数 生徒（356） 保護者（308） 教員（24）

○①思わない ②あまり思わない ③思う ④とても思う ⑤わからない

*以下の数値は各質問項目の、④とても思うと、③思うを合わせて%で表した数値です。

学力向上（１）～（５）

（１）落ち着いた雰囲気、環境の中で、授業が行われていると思いますか。

生徒	保護者	教員
67%	71%	84%

（２）学校の授業を通じて、生徒に基礎・基本が身に付いていると思いますか。

生徒	保護者	教員
88%	71%	71%

（３）ICT機器を効果的に利用し、生徒の学習意欲が高まっていると思いますか。

生徒	保護者	教員
85%	52%	84%

（４）道徳授業を通して生命を大切にする心や思いやりの心などが育っていると思いますか。

生徒	保護者	教員
88%	74%	92%

（５）補習や課題・ワークシートや質問の対応等を通じて、各教科の学力補充が行われていると思いますか。

生徒	保護者	教員
84%	61%	67%

○学力向上について

- ・ 落ち着いた雰囲気や環境の中で学習に取り組んでいる生徒の数値が昨年同様に低い。授業中の私語や授業と休み時間の区別等に問題があると考え。生徒指導を通じて改善を進めたい。
生徒には授業を通して基礎・基本が身に付いている意識はあるが、生徒と保護者、教員間の数値には乖離がある。

これからも生徒用タブレット等 ICT 機器の活用等による指導の工夫、e ライブラリーの一層の活用を進め、基礎・基本を身に付けさせ、学力の定着を図りたい。

道徳指導を通じて生命を大切にする心や思いやりの心は育っている。今後も各学年の教員ローテーション等の指導の工夫を含め、指導方法の工夫や充実を図る。

学力補充は各教科ともさまざまな方法で取り組んでいる。ただ、生徒自身の自学自習の姿勢をさらに高める必要がある。「分からないことはすぐに尋ねる、質問」など、少しずつの努力と積み重ねが大きな力となることを生徒には今後もしっかりと自覚させていきたい。

健全育成（６） ～ （１１）



（６）生徒は楽しい学校生活を送っていると思いますか。

生徒	保護者	教員
８７％	８１％	１００％

（７）学校生活を通じて、礼儀や言葉遣い、あいさつの習慣がしっかり身に付いていると思いますか。

生徒	保護者	教員
９４％	８２％	８３％

（８）生徒の悩みや心配事は相談しやすい雰囲気ですか。

生徒	保護者	教員
６４％	６３％	９３％

（９）部活動が計画的に実施され、生徒の意欲を高めるものとなっていますか。

生徒	保護者	教員
８５％	７６％	８０％

（１０）学校の施設や設備、環境は、安全できれいだと思いますか。

生徒	保護者	教員
８２％	８１％	６３％

（１１）生徒会・委員会・係当番活動を通じて、生徒の自主性が育まれていると思いますか。

生徒	保護者	教員
９２％	８２％	９４％

○健全育成について

- 多くの生徒が学校は楽しいと思っている。また、挨拶等の生活習慣が身に付いている事が数値から分かる。あいさつについては学校公開後の保護者アンケート等でもお褒めの言葉を頂いている。さらに、生徒会活動や諸活動、部活動を通じて主体的な取り組み姿勢や自主的な態度が育まれ、さまざまな教育活動の効果、成果が表れている。

あいさつができることは人生を歩む上で大切な習慣である。生徒にはあいさつは卒業後の人生においてもコミュニケーションの大切な手段である認識を持ち続けさせていきたい。

学校の施設設備、環境等の整備は用務担当業者による尽力が大きく、校内は綺麗になっている。教員の数値が低いのは、コロナ禍の中で生徒が床を中心にした清掃活動をさせられずにいる実態があるからか。ただ、これからも生徒には諸活動を通じて、環境美化に努める意識を常に意識させていきたい。

（８）の生徒の悩み等は相談しやすい雰囲気かの数値については、昨年度に比較すると生徒、保護者とも伸びている。悩み相談アンケート以外で心の奥底にある悩みや心配事に学校側から

アプローチできるよう教員同士の連携、学校とＳＣの連携、学校と家庭の連絡、連携を密に図る等、相談しやすい雰囲気や環境づくりに尽力する。



キャリア教育（１２）～（１４）

（１２）運動会や合唱コンクールなどの学校行事を通じて、生徒の主体的な態度が育まれていると思いますか。

生徒	保護者	教員
９２％	８９％	９６％

（１３）進路学習は、生徒が将来を考えるきっかけとなっていますか。

生徒	保護者	教員
７９％	６３％	７５％

（１４）進路だより等を通じて、進路選択に関わる情報が学校から適切に提供されていると思いますか。

生徒	保護者	教員
７５％	６５％	５５％

（１５）学校生活やセーフティー教室等を通して、生徒の規範意識や危機管理意識が育まれていますか。

生徒	保護者	教員
９１％	７２％	８０％

○キャリア教育について

- 今年度もコロナ禍の中で、運動会や合唱コンクールをさまざまな工夫を凝らし、実施でき大きな成果につながった、成果が生徒・保護者・教員の数値に表れている。

やはり日頃の机上の学習と行事を上手く融合させてこそ大きな成長の糧となることを今年度も実感できた。嬉しいことである。

進路だより等をタイムリーに発行できていなかったことが反省点にある。３年生の進路選択に限らず、中学校としてどのように進路指導キャリア教育を進めているのか学校として継続的な情報提供を今後も進めていく。今年度も情報の中心は学年だより等になったが、補完的に進路だよりを学校全体のものとして発行し、学校から進路指導キャリア教育の具体的な取組について情報提供していきたい。

今年度はコロナ禍でも２年生の職場体験学習を実施できたことは大変良かった。実施にあたり、地域の商店会等の協力と理解、支援が大きかった。なぜなら学校によってはコロナ禍で受け入れの事業所が少なく、体験を断念した学校があった。あらためてご理解とご協力に感謝したい。

成人年齢が１８歳になった現在、中学校卒業後３年で成人となる。選挙権、納税、社会保障、その他において大人としての意識や自覚、役割を身に付けていく段階が早まった現状を今後は意識し、貫井中学校のキャリア教育・進路指導の取組、プログラムの見直し、改善を図っていきたい。

今年度は不審者侵入を想定した生徒の避難訓練を所轄の警察署と連携して実施した。いざ危機が生徒個々に降りかかってきた際にどのように対応すべきなのか各自が対応方法を身に付け、危機意識をもっておく必要がある。今後も継続していきたい。

開かれた学校づくり（１６）～（１７）

（１６）学校だよりをはじめとするさまざまな通信、ホームページ等により、学校生活のようすがわかりやすく伝えられていますか。

生徒	保護者	教員
75%	76%	94%

（１７）学校公開、道徳授業地区公開講座、保護者会、三者面談等は、学校生活における生徒を知る機会となっていますか。

生徒	保護者	教員
77%	89%	96%

○開かれた学校づくり

- 学校だより、学年だより、給食だより、保健だより、学級通信、生活指導だより、図書だより、その他、そして学校ホームページ等で情報の提供は多岐にわたり、生徒・保護者・教員の数値にもそのようすが表れ、概ね充実していると考えます。今後もたよりを通じた情報の提供により学校と各家庭の結びつきを強めていきたい。また、コロナ禍ではあるが、学校公開の際には可能な限り学校にご来校いただき、お子さんのようすを参観頂ければと思います。その際に感想をアンケート等でお聞かせください。

学校公開、道徳授業地区公開講座、保護者会、三者面談等は、学校と保護者が生徒の成長に関する情報を共有し、連携する機会になっていると数値に表れている。やはり、適切な機会を通じて学校と家庭が向き合い、連絡、相談、報告、意見交換、確認という場を意識してもつことは必要と考える。今後ともご協力を頂きたい。



（１８）小中一貫教育

（１８）児童・生徒の交流（部活動見学、出前授業）を通じて、小中一貫教育が進められていると思いますか。

生徒	保護者	教員
72%	45%	46%

○小中一貫教育について

- 今年度はコロナ禍にあっても予定していた小中一貫教育グループ（貫井中、練馬第二小、練馬第三小）での中学校見学や合唱コンクールの児童のリハーサル見学、部活動体験・見学等の連携した取組を実施することができた。実際に見たり、体験したりすることは小学生にとって有益な体験だったと考える。また、練馬第二小、練馬第三小で中学校の先生による出前授業を実施した。児童には中学校の学びを体験する良い機会となった。（小学校長コメント）中学校としてできる範囲で今後も継続したい。

現在、小中一貫教育研究グループで各教科の先生と養護の先生で小中の課題共有シートの作成、見直しにあたっています。課題共有シートとは、子どもたちについて小中が共通の目標を持ち、小中が連携して子どもたちに力を身に付けていくための指標となるものです。今後は課題共有シートの内容を含め、小中の連携について、小中一貫教育だより等で情報の提供を行います。